**第３回中山台地区教育環境適正化検討委員会議事録（概要）**

**Ⅰ　日時**

　　平成29年7月5日(水)　10：00～12：00

**Ⅱ　場所**

中山台コミュニティセンター　２階　２－１会議室

**Ⅲ　次第**

**１　開会あいさつ**

**２　委員紹介・職員（事務局）紹介**

**３　審議経過の説明**

　（１）第１回中山台地区教育環境適正化検討委員会（平成28年10月17日）

　（２）山手台地区における通学区域の弾力的運用について

　（３）第2回中山台地区教育環境適正化検討委員会（平成29年3月13日）

**４　議事**

　（１）宝塚市立幼稚園の統廃合計画について

　（２）中山五月台中学校について（山手台地区における通学区域の弾力的運用について）

　（３）中山台地区の小学校における教育環境について

**Ⅳ　議事録**

**【はじめに】**

（事務局）　皆様にお諮りします。本会の進行役として、昨年度に引き続き増田さん、進行役の補佐として飯室さんと葛谷さんにお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

（全員）　異議なし

（事務局）　ご異議がないようですので、今年度もよろしくお願い致します。それでは、これより進行を増田さんにお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

（増田さん（以下「進行役」と表記する。）　今回の日程調整において、真っ先に学校関係、幼稚園関係、それと保護者の方の日程調整を優先すべきでしたが、順序が逆になってしまい、誠に申し訳なく思います。今後は十分に気をつけていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは本日の開会に当たりまして、教育委員会の上江洲理事から一言ご挨拶いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

**【１　開会あいさつ】**

（上江洲理事）　皆様おはようございます。5月に教育委員会事務局の理事に就任した上江洲と申します。よろしくお願いいたします。

教育委員会では、理事職が初めて配置されました。職務としては、教育長の補佐をし、あらゆる教育課題を解決に向けて取り組み、その実現を図ることです。

宝塚市では、様々な課題が山積していますが、特に中山台地区においては、少子化、或いは人口減少によって、相当に学校も小規模化しています。これは全国的な傾向ではありますが、宝塚市の場合は、大規模校と小規模校が偏在しています。今日の議題にもありますが、幼稚園の適正規模適正配置の関係、或いは小中学校の適正規模適正配置、この他、山手台地区における通学区域の弾力的運用など、様々な課題を抱えています。

こうした課題について、皆さんと一緒に、私どもとスクラムを組んで、子ども達にとって、最善の利益に繋がるような、そういう教育環境の整備をしていきたいと考えています。併せて、この取り組みによって、中山台地区のまちの活性化に繋がれば良いのではないかと思っております。

一生懸命頑張りますので、よろしくお願いいたします。以上です。

**【２　委員紹介・職員（事務局）紹介】**

　※資料P10「平成29年度(2017年度)中山台地区教育環境適正化検討委員会　委員名簿」参照

**【３　審議経過の説明】**

（座長）　審議経過の説明に入ります。事務局からご説明よろしくお願いいたします。

（事務局）　それでは、資料に沿って概略を説明します。

（１）第１回（平成28年10月17日）

この中山台地区教育環境適正化検討委員会は、昨年の10月17日に発足し、同時に第1回目の会議を開催しました。

①適正化検討委員会の役割（目的）、位置付けについて

行政と地域、保護者、そして学校がそれぞれが連携し、協働しながらこの地域の教育環境のあり方について検討していこうとするものです。

②適正化検討委員会の進め方

委員の中から進行役を選出しました。増田さん、飯室さん、葛谷さんにお願いし、承認を得ました。

③学校園の状況（園児児童生徒数の推移から）

子どもの数が減り、今後も減り続ける可能性が高いことについて共有しました。

④園児児童生徒数の減少に伴う影響

小規模化による影響、特にこの会では該当校の校長先生に学校の運営について小規模校であるが故に苦労されている点を中心にご説明をいただいたところです。

⑤早急に対応が必要な学校（中山五月台中学校）

⇒通学区域の弾力的運用により、学校規模の維持を目指す。

⑥中山五月台幼稚園について

後の議題の中で説明します。

（２）山手台地区における通学区域の弾力的運用について

10月17日の適正化検討委員会の方向性を受けて、教育委員会では、10月27日も定例会議で協議をしました。直近の第1土曜日である11月5日に、山本山手コミュニティィに通学区域の弾力的運用についてご説明させていただきました。

その後、関係校調整のため、山手台小学校と山手台中学校と調整し、11月下旬から山手台小学校のPTA会長、本部役員会、運営協議会と順次ご説明に当たってきました。

PTAだけでは方向性を決めるのは難しいがめ、1月7日と10日に保護者から意見を聴く会を開催し、その意見により方向性を決定することとしました。

そこでは、時期的に遅過ぎるとのご意見があり、1年間先延ばしにして、しっかり検討しようとの結論になりました。

（３）第２回（平成29年3月13日）

山手台地区における通学区域の弾力的運用についての経過を報告しました。次に中山五月台幼稚園の今後の方向性について説明しました。市立幼稚園の3年保育についてと中山五月台小学校の現状について説明しました。以上です。

**【４　議事　（１）宝塚市立幼稚園の統廃合計画について】**

（座長）　宝塚市立幼稚園の統廃合計画について、事務局から説明をお願いします。

（事務局）　「宝塚市立幼稚園の統廃合計画　～就学前教育の充実に向けて～」は、6月22日に正式に決定しました。既にホームページにも掲載しています。

これは、昨年、策定した「宝塚市立幼稚園の適正規模及び適正配置に関する基本方針」に基づいて策定したものです。基本方針につきましては昨年7月から12月にかけて、中山台地区を中心に説明してきましたので、内容はご理解いただいていると思います。

中山五月台幼稚園に関する内容を重点的に説明します。

統廃合計画の概要については、現在、12園ある宝塚市立幼稚園の5園を廃園して7園にしていこうとする計画です。その中の１つに中山五月台幼稚園があります。

統廃合の進め方ですが、3段階で進めていこうとするものです。

まず。第1次統廃合計画として既に小規模化が著しい園として、良元幼稚園と中山五月台幼稚園を挙げています。

廃園の時期、園児募集の停止時期は、来年10月に実施する園児募集まで通常どおり実施します。平成31年(2019年)10月に実施する園児募集から停止します。従いまして平成32年度(2020年度)につきましては4歳児の入園はありません。5歳児の在園児のみとなります。その在園児の卒園を見送って廃園となりますので、平成33年(2021年)には中山五月台幼稚園に園児はなく、廃園となります。

次に、市立幼稚園の廃園に伴う通園方法についてですが、昨年7月以降、説明会において、中山台地区からは、廃園するのであればこの地域から幼稚園に通える環境を残してほしい。或いは、中山台は傾斜地なので徒歩や自転車での通園が困難であることから、通園手段について配慮してほしいという要望を受けて、何らかの方策を皆さま方のニーズ調査を進めていく中で検討していきたいと思っています。

具体的には、4歳児が休級する平成32年度(2020年度)までに対策が講じられるように具体的な検討を進めていきたいと思います。これが第１次統廃合計画となります。

続きまして、第２次統廃合計画ですが、少子化の影響により、平成7年度末で廃園した園を、幼児人口増加に伴って、待機児童対策として平成12年度に復園した長尾南幼稚園を対象としています。現在のところ、既に待機児童も解消され、定員の充足率も下がっておりますので、一定の役割は終えたということから廃園しようするものです。

一方、中山五月台幼稚園に通っていた方が、廃園後には長尾幼稚園に通われることが予想されます。長尾南幼稚園も廃園すると長尾幼稚園に流れていくと見込んでおります。この２園同時に廃園すると、長尾幼稚園への就園希望者が殺到する可能性もありますので、こういったことを避けようということで長尾南幼稚園の廃園時期を2年ずらしております。これが第2次統廃合計画です。

第3次統廃合計画ですが、特に園名は記していないですが、小規模化が著しく、それが継続され場合ですが、具体的には4歳児において2年連続で30人以下となった場合には翌年度の園児募集から停止していこうとするものです。平成32年度(2020年度)から起算していきます。これが第3次統廃合計画です。

段階を踏んで5園を廃園し、7園にしていこうとするものです。これが統廃合計画です。

最後の6ページですが、市立幼稚園の３年保育の実施についてです。

西谷幼稚園では平成25年度から実施していますが、南部地域では、まだ、3年保育は出来ておりません。仁川幼稚園と長尾幼稚園の２園ですが、3年保育を取り組んでいこうとするものです。

ちょうどこの地域の隣接する地域となりますので、この地域からも多くの方に応募していただきたいと思います。

実施の時期ですが、今年の10月に実施する園児募集から応募をかけます。入園は来年の4月になります。

この他、7ページは、園児数の動向として資料を付けています。巻末には「宝塚市立幼稚園の適正規模及び適正配置に関する基本方針」を参考として付けております。こういった計画を策定したところですので、ご説明させていただきました。以上でございます。

（座長）　ありがとうございました。宝塚市立幼稚園の統廃合計画の説明がありました。これからご意見、ご質問を伺いたいと思います。説明に対するご質問、ご意見ございませんでしょうか？

（小学校PTA委員）　昨年からご説明をしていただいてありがとうございました。

　1点目ですが、3ページの「(4)の通園手段の方策」で、具体的な通園手段が書かれていませんが、どのような内容を考えているのか聞かせてください。

2点目ですが、4ページの長尾南幼稚園の復園について、実際に平成33年で募集停止となっているが、本当にそれ以降は募集しないのか。それと現在、長尾南幼稚園は4歳児も5歳児ともに2クラスあると思いますが、保護者の理解は得られるのかどうか。

3点目ですが、2年連続で30人以下となった場合には廃園とあります。5ページには園児募集の停止の手順ということで、2年連続で2年保育が30人以下となった場合と書かれていますが、年長も年少も30人以下と考えて良いのか。

現在、それに当てはまる園は分かっておられると思うのですが、それは今年度から対象ということでしょうか。それとも来年度から対象になるのか。現在、対象となっている園名がわかっていれば教えてください。

（事務局）　1点目の3ページの（４）市立幼稚園の廃園に伴う通園方法について説明します。ここでは、明確に通園手段を書いておりませんが、前回の検討委員会でお配りしました資料では、地域の皆様のご意見を参考にミニバス又は路線バスなどの活用を含めて検討すると説明しています。基本的にはその方向で考えたいと思いますが、実際にニーズ調査をして、その状況を見ながら、それと、皆さまと協議しながら最終的な手段は決めていきたいと思っております。なんらかの激変緩和処置は講じたいと思っておりますので、ご安心ください。具体的な方法については皆様と相談しながら、ニーズを見極めたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。以上です。

（事務局）　2点目、3点目については私からお答えします。4ページの(2)の後段、ただし書きをご覧ください。長尾南幼稚園の廃園後の受け入れが十分できない可能性が生じてきた場合には、募集停止時期を少し延ばすという考えをここで明らかにしております。

次に5ページの(2)の後段をご覧ください。起算日は、平成32年度の入園児募集から起算すると、ここで期間的な調整はしております。以上です。

（事務局）　7ページをご覧下さい。長尾南幼稚園が廃園した後に、長尾南幼稚園と長尾幼稚園と丸橋幼稚園に就園しているお子様を長尾幼稚園と丸橋幼稚園だけで受け入れしなければいけないということになりますが、定員は325名です。現在、252名ですので、施設規模的には受け入れは十分に可能であると考えております。以上です。

（座長）　ありがとうございました。その他にございませんでしょうか？

（幼稚園PTA委員）　通園手段としてのミニバスや路線バスの活用についてですが、実際にニーズがあるか見極めいたい。というところで、是非、見ていただきたいのですが、具体的にニーズ把握の方法はどのようにされるのでしょうか。

（事務局）　具体的にどのようにするのかは決めていないですが、こういう場で皆様とご協議しながら、もしご意見があれば参考にしたいと思っております。

（幼稚園PTA委員）　いつ頃、その方法は決められますか？

（事務局）　4歳児の休級は平成32年度です。それから考えますと、平成31年或いは平成30年には調査をする必要があると思っています。今年は、平成29年度ですので、来年、或いは再来年になると思います。

（座長）　この件は、適正化検討委員会を活用してもらえれば良いと思います。

**【４　議事　（２）中山五月台中学校について（山手台地区における通学区域の弾力的運用について）】**

（座長）　中山五月台中学校について（山手台地区における通学区域の弾力的運用について）事務局から説明をお願い致します。

（事務局）　山手台地区の中で適正化検討委員会のような会をもって、通学区域の弾力的運用について検討したいというご希望がありましたので、地域から意見を聞く会ということで、まち協、自治体、ＰＴＡ、それと私ども行政で、本年4月22日(土)に会合を開きました。

この会では、周辺地域の話も出ました。長尾地区は子どもが増えているので、長尾地区から中山五月台中学校に行ってもらってはどうだという意見も出ましたが、直近の推計値等の資料も出してもらって再度検討したいというご希望があったことから、引き続き協議しているところです。

その協議の前段、7月1日（土）に山手台のまち協の代表の方と意見交換をしてきました。7月中にまち協からは山手台地区の各自治体への意見聴取をし、学事課からは山手台小・中のＰＴＡの方から意見聴取をします。　7月下旬、学事課においてまち協・ＰＴＡからの意見を取りまとめていこうとするものです。8月5日（土）に山本山手のまち協の会議があります。取りまとめた意見を報告して、最終的な意見聴取をして、8月下旬に第2回目の山手台地区意見交換会を開いて、最終的な確認を行っていきたいと思っています。

この中で最終的に山手台地区には弾力的運用については了解いただければ、9月以降に山手台小学校で説明会を開催します。

時期ですが、今年の10月から手続きの受付ができればと思っております。

具体的に提案させていただいた内容が、この資料の5ページです。山手台地区につきましては3つの地域を指定しております。山手台西4丁目、山手台東4丁目、山手台東5丁目ですが、山手台東4丁目は造成中です。実際に居住実態があるのは山手台西4丁目と山手台東5丁目のみです。

　適用開始時期ですが、来年度に入学する新中学1年生、現6年生から適用させていきたいと考えております。ただし、既に該当地域から山手台中学校へ就学している生徒のうち、弟、妹が、この制度により、中山五月台中学校へ就学する場合、この兄姉も申請により、中山五月台中学校への転校を認めていこうとするものです。

　スケジュールですが、10月に意向調査を実施し、11月には保護者からの申請書を受けて決定し、1月に就学通知書の発送をして、1月下旬から始まる入学説明会にご参加いただき、4月から入学していただこうとするものです。

　この制度は、原則として通学は徒歩です。入学後に就学する学校の変更はできません。中山五月台中学校に入学したが、その後、山手台中学校に戻ろうとしても、3年間、中山五月台中学校へ就学していただくことになります。したがいまして、入学前にはしっかりと考えていただきたいと思います。

また、お住まいは山手台地域になりますので、地域活動には制限がなく、住所地が基本となることから、山手台の地域活動に参加していただくことになります。

受入人数ですが、現在のところ、上限人数の設定は考えておりません。もし、受入人数を設定する場合は、この受入人数を超過した場合は抽選になります。抽選を実施した場合は、落選する方が生じますので、十分に配慮していただくことの説明をしております。

　次に9ページが山手台中学校、中山五月台中学校、長尾中学校の生徒数の推計です。山手台中学校が少し増える見込みです。中山五月台中学校が少し減ってきます。この少しが3学級を維持するのにギリギリのラインですので、数人、前後することによって、学級数が2学級になります。長尾中学校は17から18学級を維持しております。

　こうしたことで７月中には山手台の地域の方と協議を詰めて、8月には最終的な方向性を決定していきたいと考えております。また、その方向性が決まりましたら皆様にもご報告させていただきたいと思います。以上が経過でございます。

（座長）ありがとうございました。今、ご説明していただきましたが、ご質問・ご意見ありますでしょうか？

（事務局）　皆さま方にお伺いしたいのですが、山手台地区の地域の方や保護者の方とお話していく中で少し気になる意見がありました。山手台地区から中山五月台中学校に来てもらっては困るという意見があったと聞きました。何か誤解されていると思いますが、確認したいと思います。中山台地区としては、山手台地区からの中山五月台中学校への就学は歓迎していると考えてよろしいでしょうか。

（中学校PTA委員）　そうした発言はないと思いますが、元来、この地域は山で、小さい学校がくっついてくると、色んなところから、いっぱい入っていることなれば、保守的な人はいらっしゃると思いますが、表立って言われている方はいらっしゃらないと思います。

今、息子の学年は80人です。あと1人入れば3学級であった。先生は少ないし、教室内には子ども達がいっぱいいる。だけど、空き教室はたくさんある。すごく不均衡というかこれは解消したいと思っています。

（事務局）　保護者の会合があれば、どんどんそういう話も出してほしいです。こちら側の機運も高めていただきたいと思います。

（座長）　中山五月台中学校の校長先生、いかがですか？

（中山五月台中学校長）　その通りで、何でしたら兄弟姉妹揃って来ていただいたら全学年が3学級になります。是非ともお願いしたいです。

（座長）　是非とも、そういうことを思っている人はいないという前提で話は進めてほしいです。

（小学校PTA委員）　山手台小学校のPTA会長から、中山台地区は、通学区域の弾力的運用について、どのように考えているのか聞かれたことがあります。去年の方はWelcomeと言っていたと聞き、この検討委員会でも反対意見は出てこなかったので、全然、大丈夫だとお答えしました。そうすると、それを踏まえて僕たちも考えましょうとおっしゃっていました。以上です。

（座長補佐）　中山台地区には13,000人の人々が住んでいます。どんな問題でも賛成と反対があるなど、個人的には色んな意見があると思います。そこは、冷静に判断していただいて、全体の意見として、ＰＴＡの中でも喧々諤々とやられているのであればいいのですが、第１回の会議でも提案されて、すぐに進めてくださいとお願いしていますので、住民の意思だと受け取っていただいて山手台にもそう説明してほしいです。

（座長）　他はございませんか？

それでは次の議題に移らせていただきます。

中山台地区の小学校における教育環境についてということで事務局の方から説明お願い致します。

（事務局）　中学校につきましては、第１回目の検討委員会で議論させていただき、第２回目の検討委員会で小学校をテーマに挙げましたが、具体的な審議に至らないまま持ち越しになったという経過があります。今回の最も重要な審議事項となります。資料も含めて説明します。

　7ページです。中山台地区小中学校の児童・生徒数推計です。これは平成29年度については、それぞれの学校の実数です。平成30年度以降は推計値です。これは住民基本台帳の学齢児童、学齢生徒の人数に公進率を掛け、住宅開発による転入見込み数を足した人数です。

中山五月台小学校は、今年度の児童数が117人です。1年生では特別支援学級を含めて12人です。来年度以降の1年生は、20人台になる年もありますが、概ね10人台を維持する見込みです。

一方、中山桜台小学校ですが、少し増加傾向にあります。これは中筋山手7丁目の住宅開発の影響だと考えられます。開発前は、長尾小学校区、山手台中学校区でしたが、住宅開発に合わせて校区を変更しました。この地域に子どもが増えております。

中山台地区を1つの小学校区と考えた場合、8ページの資料ですが、18学級から19学級となります。宝塚市の規定する適正規模12～24学級に当てはまります。

また、宝塚市の市立学校を規模別で一覧表にした資料ですが、中山桜台小学校は12学級で、適正規模校の下限の位置です。中山五月台小学校は6学級で小規模校です。中山五月台中学校は昨年度までは9学級でしたが、今年度8学級になりましたので、小規模校となりました。

この分布は、年を重ねるごとに全体的に階段をおりるように、下に降りてきています。上がっているのは山手台小学校です。他は、多少の地域差はありますが、小規模化しています。これが少子化の影響です。

（３）の②小規模校の課題整理ですが、皆様方に何度か説明させていただきましたが、一定の規模があることによって子どもたちは、集団の中で多様な考え方に触れたり、認め合い、協力しあっって、切磋琢磨することを通じて子どもたちが成長していきます。また、人間関係の序列化、固定化をしないようにクラス替えができる環境が必要であり、単学級では、体育などで、クラス対抗ができなかったり、部活動においても子どもたちに十分な選択肢を用意することができないなどの課題があります。

教員の配置については、誤解を招かないよう十分に説明しなければならないのですが、教員が少ないと、一人の教員が色んな役割を担うことになります。そうするとそれぞれの教員は忙しくなり、その分、子どもと向き合う時間が割かれることになります。

特に中学校は、様々な会合があって、学校を抜けなければならないことがあります。残った教員で対応しなければなりませんが、残った教員自体が少ないので、対応が十分に出来ない場合があります。その分、子ども達に影響が出てくる可能性が十分にあります。

保護者や地域の皆さま方からは、こうした小規模校であっても、それを補うよう十分に対応していただいているとお聞きしますが、更に教員の数が減ってくると維持できなくなることも想定しておかなければならないと考えています。

ここで、将来的には児童生徒が減少し、それに伴って学級数も減少していくことが予想される中で、小規模校のあり方についてご議論いただきたいと思います。

次の3ページですが、小規模化の現状は共通認識できたと思います。そこで、次の段階へ移って、この小規模化をどのように解消するのか、その手法についてご説明いたします。

基本方針の中には、例示として、１点目に学校の統合を挙げています。２点目に通学区域の変更。３点目に通学区域の弾力的運用。その他として、特認校、小中一貫教育、平成28年度からは制度されて義務教育学校としています。こういった方法も視野に入れて皆さま方にご検討いただきたいと思います。説明は以上でございます。

（座長）　ありがとうございました。具体的な数値を見ながら説明していただきましたので、イメージ的にも分かりやすかったと思います。これからのことをお話していただきましたが、ご意見・ご質問ございませんでしょうか？

（小学校PTA委員）　まだ具体的なことは決まっていないと思いますが、市としての方向性はあるのでしょうか？

（事務局）　平成28年3月に策定した基本方針の中では、小学校は12～24学級の適正規模から外れる学校は教育環境に課題があるとして、何らかの対応をしていこうとしています。

特に中山五月台小学校につきましては、学校規模に起因する教育環境としては、決して良い状況ではないと思います。あくまで学校規模に起因するところです。何らかの対策を講じていくべきだと考えています。具体的な方法につきましては、適正化検討委員会の中でご意見を聞きながら構築していきたいと考えております。

（小学校PTA委員）　市としては早急にした方が良いという思いはありますか？

（事務局）　中山五月台小学校では、近い将来、6学年中多くの学年が10人台にまで減少します。1学年当たり20人を下回ると教育環境としては厳しい状況だと思います。

子どもたちの触れ合いや切磋琢磨する環境からは著しく欠落していくというのが、20人のライン、又は全校生徒120人のラインだと思います。

今の中山五月台小学校は、速やかに何らかの方策を講じるべきだと思います。

（小学校PTA委員）　早期の対応となると、学校の統合となるが、ここに小中一貫とか特認校が示されている。これは、学校統合と併せて考えるべき対策ですか。

（事務局）　小規模化の問題は本市だけではなく、全国的な傾向でもあります。京都市では、かつて子どもが多かったので、学校建設が進みました。今では少子化の影響から、統合の問題に直面しています。こうした状況の中で、この小中一貫校によって、学校を集約し、統廃合を進めています。人口が急激に増えて急激に減ったところは、小中一貫教育を取り入れながら学校の統廃合を進め、教育環境を維持しております。

（小学校PTA委員）　小中一貫教育と言われてもメリットやデメリットが分からないので、今後、そういう話を進めていくなら詳しく教えてほしい。

（事務局）　小中一貫教育については、教育委員会でも研究しておりますので、次回の適正化検討委員会で資料を提出します。

（座長）　その他ご意見・ご質問ございませんでしょうか？

（自治会委員）　中山五月台幼稚園の園児数の問題ですが、資料を見ると、4歳児は平成27年が25人、平成28年が27人、平成29年が28人と増えている。5歳児は平成27年が43人で平成28年が26人と大幅に減っているが、平成29年は31人と少し増えている。小学校は平成35年までの推計値を出されていますが、幼稚園の推計値はありますか？

（事務局）　幼稚園の推計値ですが、参考程度には取っていますが、公表するほど正確なものではありません。小学校の場合は、宝塚市全体で約95％の児童が市立小学校に入学します。残りの5％が国立や私立の小学校へ入学されます。ほとんど市立小学校へ入学されますが、就学前は、公立幼稚園に私立幼稚園、公私立保育所に就園している。また、園区もないため、地域ごとの就園状況も年によってまちまちです。

　また、小学校の入学前は6年間のサンプルがありますが、幼稚園の場合は3年間のみとなり、長期的な推計も難しいところです。事務局の資料としては参考程度で持っておりますが、公表できる精度の高いものではないのが現状です。誤解を招いてはいけませんので、公表はしておりません。

（自治会委員）　減っていますか？横ばいですか？それも言えないですか？

（事務局）　子どもの数が減っています。その上、長時間保育の保育所への入所児が増えています。短時間保育の公立幼稚園は減っています。

（委員）　特認校というのがよくわからないので、教えてください。

（事務局）　特認校ですが、この辺りでは、三田市、神戸市、箕面市に特認校があります。三田市は母子小学校、神戸市は六甲山小学校、箕面市は止々呂美小学校です。学校の特色を活かし、校区を定めず、市内のどこからでも就学できる制度です。

小中一貫教育は、小学校6年間、中学校3年間の枠を超え、9年間を義務教育の期間として捉え、この期間の中で一貫した教育方針の下に学習を進めて行く学校のことです。校区指定はあります。

（子育てグループ委員）　中山五月台幼稚園に入園させようと思っていたが、幼稚園が廃園となるので、上の子は入園できるが、下の子2人は長尾幼稚園に入園させなければならない。

同じ市立幼稚園に入園させようとすると3人とも長尾幼稚園に入園させる選択肢しかないので、通園手段を平成32年から講じるのではなく、今の段階でバスや車通園を考えてもらいたい。他にも同じような兄弟姉妹関係の家庭があるので、対策は早くしてほしい。

（事務局）　仮にバスを出す場合、平成32年度の4歳児が休級する時からになります。あくまでも、現在、中山台に住む子ども達への激変緩和措置になります。次年度の3年保育への通園のためにバスを出すよう要望を受けても、これは基本的には出来ないと思います。何歳のお子様がいらっしゃるかわかりませんが、平成32年度に4歳児として入園されるお子様から方策を講じることになります。現在の制度を補填する意味ですので、ご理解をお願いしたいです。

（事務局）　長尾幼稚園は原則徒歩での通園です。園に車で乗りこむことはできません。園が許可した場合は車で通園が可能です。ただし駐車場を用意していないので、保護者で駐車する場所を用意していただいています。

（事務局）　今、長尾幼稚園では、あいあいパークに駐車して送り迎えをしている方がいると聞いております。少し距離はありますが、歩いて通園することが子どもの体力を養うことにもなりますので、ちょうど良い運動になっていると聞いております。

（座長）　ここで議論することは、中山五月台幼稚園の廃園に伴い、本来、中山五月台幼稚園に行くべきだった方をどう負担なく次の教育施設まで運ぶことができるかということです。基本は、中山五月台幼稚園までの距離は歩くことが前提だと思います。バスのお話が出ておりましたが、それは私立みたいに子どもたちを拾っていくようなバスではないと思います。あくまで中山五月台幼稚園に通園するつもりでその距離は歩くと思っていた方がよいと思います。その先は通園手段を確保しますという意味だと思います。そういう認識でお考えいただいた方がいいと思うのと、あいあいパークに駐車している話もありましたが、あいあいパーク側からすると公に言われたら困ると思います。これから先のことで不安もあると思いますが、よろしくお願いしたいと思います。

（事務局）　執行役から協力的なお言葉をいただいて感謝しています。お困りであれば相談してほしいです。できるだけ皆様の負担にならないように考えたいですし、意見をまとめて、また考えていきます。

（幼稚園PTA委員）　ここの教育環境とは、公立も私立も選べることです。通園手段は一番大事です。通園できなければ公立を選べる環境ではありません。それは環境が整ってからの話ではなくて、今、話し合っていただきたい。雲雀丘学園中山台幼稚園では、わずかではあるが、駐車場があり、車通園しています。時間を決めて順番に送り迎えをしている。だから頭を使えば出来るんです。それをあいあいパークの駐車場が空いているから保護者に負担を求めて歩けと、妊娠していてベビーカーを押して、荷物があるのに、炎天下、雪の中、大雨の中をどうやって行くのですか？やっぱり私たち保護者の現実的な暮らしをよく知っていただきたいです。本当にお母さんをやった人しかわからないことだから、一生懸命訴えているのです。だから今考えてほしいです。

（座長補佐）　今、話されていることは中山台地区に住んでいる人にとっては切実な問題だと思います。先程のお話の3人のお子様の幼稚園がバラバラになるから、私はどうしたら良いのと。それはキチンと受け止めなければならないと思う。バスの問題ですが、冷静に整理しないといけない。どこに停めるか等の問題は、中山五月台幼稚園に通うべきだった方だけの問題ではなくて、それ以前の長尾幼稚園の問題です。幼稚園は園区がありません。私が見かけたのは、中山観音駅の近くから通っている方もいると思います。長尾幼稚園も広域から来られている。その人達の問題でもあります。車通園については、我々だけの問題ではない。山手台西4丁目や山手台東5丁目の方も同じ問題だと思います。こうした人は、あいあいパークに停めているのか、歩いて通園するなどしています。これは、私たち中山台だけの問題とすると、なぜ、山手台は配慮しないのかなど、広域的な問題となるので、そこも頭に置きながら、これは長尾幼稚園の中の問題としながら整理して考えていかないといけないと思います。他の地域から苦情がくるかもしれない。なぜ、中山台だけなのかを整理しなければならないと思います。幼稚園は、もともと駐車場を持っていない。それが原則であると思います。それが本当は問題だと思います。この時代は幼稚園の中に駐車スペースを持つべきだと思いますが、いきなり、そこの問題までこの短期間で踏み込むのは、少し整理が必要だと思います。

（座長）　問題を分けて考えないといけないと思います。幼稚園に就園した後のことは、山手台や他の地域の方々も含めて幼稚園の問題として考えないといけないです。ただこの場において大事にしたいのは、中山台地域から長尾幼稚園に行く手段の確保は揺るぎないものを目指していただきたいです。全市的に見ると、ここの地域だけ、なぜと横やりが入って、話がなくなってしまわないとも限らないことなので、そのあたりは特別な配慮をしていただくという認識は持っておかないといけないと思いますので、よろしくお願いいたします。

　今の話は大切なことなので、また、違う場で長尾幼稚園の3年保育に向けての説明会の時に、こうしたことも含めた新しい提案をしてもらえるようにお願いしたいと思います。

　小規模校における適正化の手法として、3つの具体的な案が示されていますが、今日は、メンバーが揃っていないので、次に進めた結論は出さないということで会議の設定をしています。まず、どの手法を取るのかと、小中一貫教育や特認校については、各団体に持ち帰って、それぞれの意見をまとめていただくまではいかなくても、どういった方向に向かって進めていくのが望ましいを話し合っていただいて、次にご意見を寄せていただくという進め方にしてどうかと思います。

（小学校PTA委員）　持ち帰って話し合ってくる内容として、小中一貫教育と特認校と、適正化の手法はどれが良いのかということですか。

（座長）　今、提案をいただいただけで、実際にこれに向けて進んでいくことが良いのかどうかも含めて、方向性を話し合っていただきたい。

　例えば、期日的なものも、何年くらいが良いのか、すぐが良いのか、色んなことがあると思いますが、この資料の中には児童数の推移もありますので、それを見ながら検討いただければと思います。

　中山五月台小学校には、小学校なりのご意見があると思いますし、中山桜台小学校は、中山桜台小学校なりのご意見があると思いますので、まずは、ＰＴＡや育友会の皆さまのお考えを吸い上げていただいて、この場でお話しいただきたいと思います。

（小学校PTA委員）　それでは、全体の保護者向けではなく、育友会、ＰＴＡ内、役員内での話し合いということですか。

　先ほども、小中一貫校のメリット、デメリットなど、具体的に分からないと、良いも悪いも言えないと思うので、説明して意見を吸い上げるように言われても、分からないことは説明できませんので、だったら、具体的なものを踏まえた上で、方向性を決める方が良いのではないかと思います。

（座長）　小中一貫というのは、あくまでも、その先にあるものだと思います。一緒にやっていくのがベストかもしれませんが。

（小学校PTA委員）要するに統合か統合ではないか。

（事務局）　今、ご意見をいただいた内容もご最もだと思います。出来れば、各団体に持ち帰っていただいて、一定の方向性なり、考え方というものを持ち寄って、次回の検討委員会で議論できれば良いのですが、例えば、方法として、学校を統合した場合、それと小中一貫教育について、メリット、デメリットを整理させていただいて、それを次回の検討委員会で提示した中で議論し、それを各団体に持ち帰っていただいてご意見を集約していただき、それを持ち寄るという方法も選択としては良いと思います。資料は準備させていただきます。

（座長補佐）　今まで3回の検討委員会で論議をした中で、はっきりしてきたことは、幼稚園の廃園という問題。それから中学校の通学区域の弾力的運用。中山五月台小学校については、具体的案がない。その状況で中山五月台小学区をどうするのかというところが、全体のテーマとしてあって、その先に見えるのが小中一貫校。これは副市長が前回に来た時に申し挙げましたけども、中山五月台小学校が中山桜台小学校と一緒になって、それで終わりではなくて、小中一貫校など、そういう視点を、中山台ニュータウンというのは、一つのモデルとしては、適切かもしれないというような話をされた。私たちもそこを睨みながら、統廃合の問題を考える必要があると思います。そういう意味で、たちまち、その他のここを我々は結論を出さないと進まないよという話ではない。将来はあり得る話だということです。だから論議に加えていきましょうかということです。

　材料を出してもらって、進めていけば良いと思います。

（座長）　それでは、次回に統廃合についてのメリット、デメリットをお示しいただけるということですね。

（事務局）　中山台地区における小学校の統合と併せて小中一貫教育の資料もお示しします。

（座長）　今回のお話しの内容を各団体に持ち帰って、ご説明いただこうと思っていますが、その時には説明するだけで、具体的に聞いておいてほしいこともあれば、お示しいただけますか。

（事務局）　そういったことも含めて、次回の検討委員会でご提示します。

（座長）　それでは、今回は報告だけで良いと言うことですね。

（事務局）　はい。今回、私たちが受け止めたのは、小規模化がこれからも進行していきますので、なんらかの方策は講じていかなければならないという方向性はこの中で確認できたと思います。その具体案として、次回、統合と小中一貫校をご提案します。

（中学校PTA委員）　１点だけいいですか。今、子どもの数が少なくなっていますが、国全体が同じ状況ですね。少ない子ども達を国として守る方法はないのでしょうか。子ども数が少ないのであれば、どうしようもないと思います。それを、どうこうするのではなく、今、そんなに少ないのに、1クラス40人で2学級、先生は減らされて、もう少し手厚く、市として頑張ろうとは思わないのか。

私は医療機関にいますが、医療もサービス業ではないが、なにかしら様々なサービスを提供していこうとする心を持ってやっています。教育ではそれはないのですか。

（事務局）　教育分野では国・県、市で役割を分担しています。教員の配置は国と県の役割です。かつては小学校も中学校も45人学級でした。それが40人学級となり、今では小学校1年生を35人学級としています。兵庫県では1年～4年生まで35人学級で、増える教員の人件費は県が負担しています。1学級あたりの児童数を減らして、きめ細かい対応していこうという取り組みをしております。こうした取り組みをしています。

全体としてはそういう方向に向かっています。教員の配置割合は増えていますが、学級数が減っているので、結果として、小規模校では教員が少ない状況に陥っている。

（中学校PTA委員）　学級が減ると教員が減る。人数でバサット切る。そういう問題ではないと思います。それも売りに出来ると思います。もっと手厚くやっているから、宝塚市は子どもが育てやすいとか、出来ると思います。

知恵を出せば出来るはずなのに、市は適正規模だと言って、校区の変更を考えているけど、もっと、市として売りになる提案が聞こえてこないから不満になる。

中学校も大切な時期で、子どもの自殺率も高いと言われているのに、それに手当できる先生がいない。それであれば、せめて、40人でバサット切るのではなくて、もう少し、弾力的に対応するという市の対応をもう少し出して欲しい。地域や保護者がどう言っても関係ないと思う。

（事務局）　私たちのPR不足もあるかと思います。学級担任は、確かに数字で切られているところがありますが、今は、教員の加配という制度があります。そういう先生方はかなり増えています。これは、県が配置している部分と市が単独で配置している部分があります。生徒指導が困難な学校には先生を加配しておりますし、スクールソーシャルワーカーのように福祉的な配慮が必要な場合やスクールカウンセラーも配置しております。教科の先生以外にもたくさん人件費がかかっておりますが、行き届いていないのであれば、私達のPR不足かもしれません。ただそれで十分かと言えば十分ではないのかもしれません。

（中学校PTA委員）　それも含めてどうするのか。

（自治会委員）　今の話を最初から聞いていますと、少子高齢化で町がだんだん衰退化していく。その対処法をやっている。話を聞いていて、全然、面白くない。街の活性化に繋がる話がない。通学区域の弾力的運用を活用すれば活性化に繋がるとか、この地域に幼稚園に通う人が増えるなど、そういう視点がほしい。教育委員会だけの問題ではないと思いますが、市全体として、街が活性化するなど、中長期的に考えて対応するのであれば、もう少し活発な意見が出ると思う。

（座長）　ありがとうございます。教育委員会の管轄とまちづくりの管轄と絡み合っての街づくりだと思いますけど、まずは教育委員会の学事課としては中山台地域の子どもたちの教育環境をなんとか適正なものにしないといけないということで、今動いてくださっております。

国で決められないことを市でも決められることもあると思いますが、国を動かすのは難しいと思います。しかしながら、地域から出た意見を県や国にも伝えてほしいと思います。

宝塚市が、スクールソーシャルワーカーやカウンセラーがいて、十分に力を入れていることを知っています。確かにPR不足もあるかもしれませんが、ＰＲしているところも知っています。実際に、それが保護者の目に届いていない現実があります。そこも大きな問題ではないかと思いますので、やはり三者が力を合わせて取り組んで行くという気持ちにならないと、それぞれがバラバラに動いていると大きな取り組みにはならないと思いますので、一緒に教育を創り上げるという視点に立った会議ですので、色んな意見が出るなか、市もそれをうまく、色んなところに持って行っていただきたいと思っています。

（座長補佐）　この問題だけではないですが、まちづくり促進委員会をやっていまして、今出た意見は良く分かります。協働という取り組みで市が計画を策定するとき、どういう姿勢で望むのか、計画段階から市民が参画すると決まっている。市は市なりに仕組みを作って、審議会の委員を増やしたりしています。それが現実として機能しているのかが問われるべきです。この適正規模・適正配置でも子どもの審議会をやっています。PTAの会長が委員で出ております。発言しています。委員会全体としては、審議会の中では論議をしている。それが末端まで伝わっていないのはなぜか。PTAの意見も出ている。課題は参加する仕組みがあったら、目いっぱい参加するということ。市民側が市にやってくださいではなくて、我々が市の政策を変えるという気持ちで前段階でも変えられる。

結論が出る前に変える仕組みがあります。市は市で悩むと思います。結論を出すとなかなか現場と意見が一致しない。お互い悩みを抱えている。チャンスは住民側にもありますから、宝塚市はそういう仕組みを持っていただいていると感じていますから我々も参加していきましょう。

（座長）　まだまだご意見ある方もいらっしゃると思いますが、そろそろ残り時間も少なくなってきましたので、次回の日程についてお願いいたします。

（事務局）　次回の日程ですが、本日の課題を整理し、資料作成したいと思います。少しお時間いただければと思いますので、9月中の午前中で調整させていただきたいと思います。

（座長）　それでは、本日の議題についてはこれで終了となりました。色々なご意見が出ていましたが、皆様のご意見の意味をなかなか掴めない議事進行になった部分もあったと思います。本当に申し訳ございませんでした。これからも良い会議にしていきたいと思います。それでは事務局にお返しします。

（事務局）　どうもありがとうございました。それでは閉会になりますが、和田管理部長から閉会に当たりまして一言、ご挨拶させていただきます。

（和田部長）　本日はどうもありがとうございました。貴重なご意見をいただき、また、我々も考えていかないといけないと思います。先程も意見がありましたけど、先生の人数とかは現状では致し方ない部分もありますが、特認校や小中一貫教育のような、これからの教育環境を魅力あるものにしていければ、街づくりにも発展していくと思いますし、そこまで考えて議論していただければありがたいと思います。今後も皆様と一緒に考えていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。

（事務局）　それでは、これをもって閉会させていただきたいと思います。ありがとうございました。